



今日のトピック 米国クレジット市場とVIX指数 引き続き慎重な対応が求められよう

ポイント1 米国クレジット市場は一時大幅悪化 原油価格の下落がエネルギーセクターを直撃

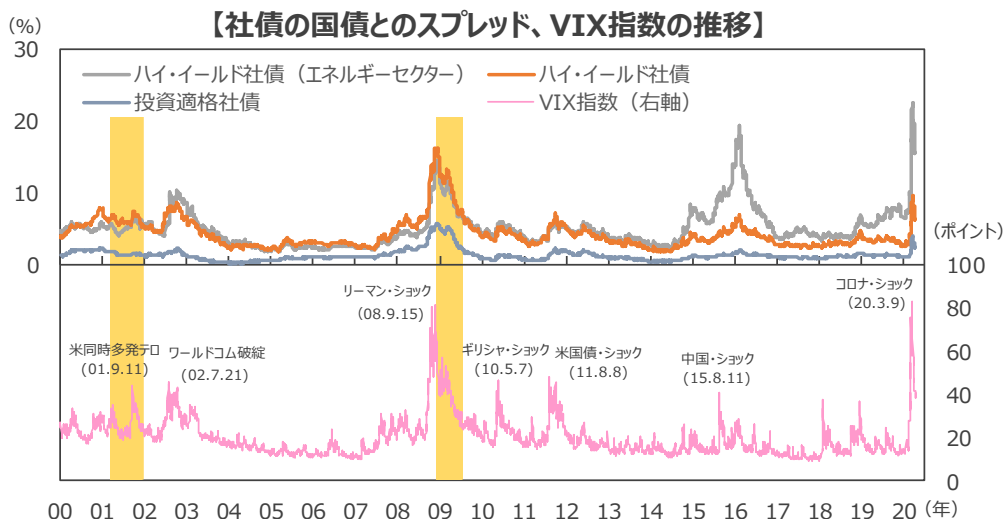
- 米国クレジット市場は、3月以降、新型コロナウイルスの感染拡大による景気悪化懸念を受け、ハイ・イールド社債を中心に価格が大幅な下落となり、国債との利回りスプレッドが拡大しました。また、原油価格の下落により、ハイ・イールド社債のエネルギーセクターのスプレッドはリーマン・ショック、中国・ショック時を上回る大幅な拡大となりました。投資家の心理のプレを示すVIX指数も3月16日に過去最高となる82.69を記録しました。

ポイント2 FRBの追加信用緩和策～クレジット市場に安心感が広がる 心理の極端な悪化は後退

- 米連邦準備制度理事会（FRB）は3月以降、積極的な利下げや量的緩和、信用供給策を講じています。4月9日には、総額2.3兆ドルの追加信用緩和策を発表しました。FRBによる社債市場支援が強化されたことで、クレジット市場に安心感が広がりました。VIX指数も4月14日には37.76まで低下しました。

今後の展開 引き続き慎重な対応が求められよう

- クレジット市場では安心感が広がりましたが、今後は引き続き一定の慎重さが求められそうです。投資適格社債は、FRBがBB格へ格下げされた企業の社債買い入れも可能となるなど、支援策は一段と手厚くなっています。一方、ハイ・イールド社債の買い入れは限定的となっています。また、原油価格がWTIベースで再び20米ドル/バレルを割り込むなど、ハイ・イールド社債を巡っては依然不透明感の強い状況が続くそうです。



(注1) データは2000年1月3日～2020年4月15日。投資適格社債は4月14日まで。黄色の帯は景気後退局面を示す。

(注2) VIX指数：シカゴ・オプション取引所（CBOE）で取引されるS&P500オプション価格から算出される潜在的価格変動率（インプライド・ボラティリティ）から算出。原指数であるS&P500種指数の値動きが大きくなるほど、値が大きくなる。

(出所) Bloomberg L.P.、ICEのデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成

ここもチェック! 2020年4月14日 米国株式市場～成長期待への信認は回復過程へ 2020年4月13日 吉川レポート：世界経済見通しの悪化とマネーフロー

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友DSアセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。